

# 医療安全学

ナンバリング

M1-S1-F03

責任者・コーディネーター	医療安全学講座 肥田 圭介 教授		
担当講座・学科（分野）	呼吸器内科分野、医療安全学講座		
担当教員	肥田 圭介 教授、長島 広相 特任准教授、大浦 裕之 非常勤講師、小野寺 憲一 非常勤講師		
対象学年	1	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 8コマ 16.0時間
期間	前期		演習 0コマ 0.0時間 実習 0コマ 0.0時間

## ・学習方針（講義概要等）

医療の現場には様々なリスクが存在することを認識し、リスクを軽減し安全で質の高い医療を提供するために医療安全（患者安全）が果たす役割を理解する。

## ・教育成果（アウトカム）

医療の現場では患者・家族とのコンフリクト、医療事故の他、医療関連感染のリスクが常に存在することを認識し、その要因としてヒューマンエラーやコミュニケーション能力の不足などが原因として挙げられる事を理解し、その対策を検討実施することで、安全で質の高い医療を提供する基盤を築けるようになる。

(ディプロマ・ポリシー： 1,2,3,4,5,6,7 )

## ・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	医療関連感染が社会に与える影響や発生時に生じる危険性について説明できる。
2	医療関連感染に発生要因について理解できる。
3	標準予防策について説明できる。
4	医療機関で問題となる基本的な感染症を理解する。
5	感染経路別予防策について理解する。
6	与えられた臨床状況から感染リスクを推定評価し、適切な予防策を選択できる。
7	医療現場における医療事故の概念を説明できる。
8	医療安全に係る政策、院内体制について理解する。
9	医療事故が発生する要因について説明できる。
10	インシデント報告の意義を理解し説明できる。
11	心理的安全性について説明できる。
12	コミュニケーション能力を高めるための方法について理解する。
13	患者の意思決定支援のプロセスについて理解し、説明できる。
14	医療現場におけるコンフリクトを理解しマネジメントのために必要なことを説明できる。
15	怒りの感情が医療現場にもたらす影響について理解する。
16	アンガーマネジメントの概念について理解する。
17	怒りの発生メカニズムについて理解し、説明できる。
18	アンガーマネジメント「3つのコントロール」について説明できる。
19	病院内の様々なリスクの存在を知る。

20	モンスターペイシエント、ハードクレーマーなどの患者トラブルの実態を知る。
21	病院における保安対策について理解する。
22	患者トラブルの際の適切な対応を理解する。
23	病院と警察の関りについて説明できる。
24	医療事故が患者家族、医療者に与える影響について学び、説明できる。
25	医療対話推進者について説明できる。

・ 講義場所

講義：東1-A講義室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	6/30(火)	4	呼吸器内科分野	長島 広相 特任准教授	感染制御学 標準予防策について	1,2,3,4,5,6	【事前学修】 体調管理に努める。感染制御における標準予防策について調べておく。 所要時間60分以上 【事後学修】 事後学習については講義の進捗状況に応じて適宜指導教員より指示する。 所要時間200分以上 【ICT】 WebClassに事前資料をアップする
講義	6/30(火)	5	呼吸器内科分野	長島 広相 特任准教授	感染制御学 感染経路別予防策について	1,2,3,4,5,6	【事前学修】 体調管理に努める。感染制御における標準予防策について調べておく。 所要時間60分以上 【事後学修】 事後学習については講義の進捗状況に応じて適宜指導教員より指示する。 所要時間200分以上 【ICT】 WebClassに事前資料をアップする
講義	7/1(水)	1	医療安全学講座	肥田 圭介 教授	医療安全（患者安全）の概念と医療安全管理体制について	7,8,19	【事前学修】 報道等による医療事件事例を検索し、医療事故の実態を予習しておく。 所要時間30分以上 【事後学修】 講義内容をふまえて医療事故について調べ、医療現場に存在するリスクについて学ぶ。 所要時間200分以上 【ICT】 WebClassに事前資料をアップする

講義	7/8(水)	4	医療安全学講座 医療安全学講座	大浦 裕之 非常勤講師 肥田 圭介 教授	アンガーマネジメントのススメ	12,14,15,16,17,18	【事前学修】 日常における自身の怒りの感情について振り返り、怒りの感情が医療現場にもたらす影響について考える。 所要時間30分以上 【事後学修】 アンガーマネジメントについて講義資料を振り返り、日々の生活においてアンガーマネジメントの「3つのコントロール」が実践できているか確認する。 所要時間240分 【ICT】 WebClassに事前資料をアップする
講義	7/9(木)	4	医療安全学講座	肥田 圭介 教授	医療事故の要因と対策	9,10,12,14	【事前学修】 医療事故の原因となりうる事項について調べておく。 ヒューマンエラー・ヒューマンファクターについて予習しておく。 所要時間30分以上 【事後学修】 医療事故の要因について整理する。 「To Err is Human」の意味について解説できる。 医療事故を予防する組織活動について整理する。 所要時間240分 【ICT】 WebClassに事前資料をアップする
講義	7/15(水)	1	医療安全学講座	肥田 圭介 教授	医療安全対策に必要なこと、考え方	11,12,13	【事前学修】 自身が医療安全に対し何ができるか調べ、考察する。 所要時間30分以上 【事後学修】 医療安全文化の醸成を日々の実習等で実践する。 所要時間200分以上 【ICT】 WebClassに事前資料をアップする
講義	7/16(木)	4	医療安全学講座 医療安全学講座	小野寺 憲一 非常勤講師 肥田 圭介 教授	院内暴力や患者トラブルの実態と対応について	14,20,21,22,23	【事前学修】 院内暴力や事件等の実態について調べる。 所要時間30分以上 【事後学修】 講義資料を参考に病院に存在する保安上の問題を整理し、今後の実習で自ら注意すべき点を整理する。 所要時間200分以上 【ICT】 WebClassに事前資料をアップする

講義	7/17(金)	3	医療安全学講座	肥田 圭介 教授	医療事故の実例を通じ患者安全を理解する	24,25	<p>【事前学修】 医療事故の当事者となった場合の影響を自身になぞらえて考えてみる。 所要時間30分以上</p> <p>【事後学修】 医療事故が患者・家族に加え、医療従事者に及ぼす影響を整理し、患者安全のため今後自身が身につけなければいけない知識。技術を整理しまとめておく。 所要時間240分</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>
----	---------	---	---------	----------	---------------------	-------	---

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	医療現場のアンガーマネジメント入門	大浦裕之	日経ヘルスケア	2024年
参考書	医療機関等における院内感染対策について	(厚生労働省)	<a href="https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000845013.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000845013.pdf</a>	2014年
参考書	医療機関における院内感染対策マニュアル 作成のための手引き(案)[更新版]	平成25年度厚生労働科学研究費補助金(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業) 「医療機関における感染制御に関する研究」(H25-新興-一般-003) 研究代表者: 八木折也	<a href="https://janis.mhlw.go.jp/material/material/Ver.6.02%E6%9C%AC%E6%96%87170529.pdf">https://janis.mhlw.go.jp/material/material/Ver.6.02%E6%9C%AC%E6%96%87170529.pdf</a>	2016年
参考書	「怒り」を上手にコントロールする技術 アンガーマネジメント実践講座	安藤俊介	PHP	2018年
推薦図書	医療・看護現場の心理的安全性のすすめ	田淵仁志	メディカ出版	2023年

・成績評価方法

<p>【総括評価】 進級試験成績(100%)で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。 講義中アンプロフェッショナルな態度(無断退席、授業態度)が認められた場合には減点(進級試験成績×0.8)の対象とする。</p> <p>【形成的評価】 講義毎の振り返りシートで理解度を確認し、フィードバックする。</p>								
到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1~25	1~7				100			100
合計					100			100

・特記事項・その他

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

講義資料はWebclassで配信する。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

大学病院等における医師および保安業務の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

参考書、講義室、PC、インターネット環境

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済の機器・器具はありません			